



NO. 95
2010.5月号

U information

ワイユー インフォメーション

|山|口|大|学|広|報|誌| <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yu/>



特集テーマ

地域に開かれた
山口大学



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

Contents

新体制発進 学長が語る「知の広場」の未来	3
理事・副学長からのメッセージ	6

特集

大学と地域のステキな街づくり【地域に開かれた山口大学】	8
■ 平川地区の一大会事！ ふれあいクリーン作戦！	9
■ 豪雨災害で協力！ 給水支援による地元貢献	
■ 夏の風物詩 平川盆踊りに、学長も参加 !!	
■ 地元 平川まつりに企画参加しました！	
■ アナタの桜、育てませんか？ 桜花爛漫プロジェクト	10
■ 地域との交流が進む山大サークル「Cheka」、「MAPPY」	
■ 地域社会に広がる「知の広場」	
■ 吉田キャンパスの整備状況を地域の人たちに紹介	11
■ 山口国体を応援する「ぶちやっちょる隊」	
キャンパス解体新書【あなたも利用できる！ 山大施設ガイド】	12
■ 吉田キャンパス	12
■ 小串キャンパス	13
■ 常盤キャンパス	
「先生おじゃまします」 研究室訪問	14
シゴトのコト【OB&OG Voice 先輩に聞きました】	16
NEWS&TOPICS こちら山大情報局	18

やまだい 歳時記



今年も新しい年度がスタートしました。吉田キャンパスでは、これまでにない多くの桜が新入生を迎え、新たな期待に胸ふくらませる新入生たちの明るい声が響いていました。構内には真新しい自転車があふれ、新入生歓迎フェスティバルには2,000人を超える学生が参加して賑わいました。そして、季節は桜色から若葉色へと移ろう中、授業やサークル活動に、希望を実現する新入生の新たな挑戦が始まっています。

新体制発進

New System start

新年度がスタートし、気分一新。山口大学執行部も新体制が発足しました。

そこで、二期目を迎えた丸本卓哉学長に、

新たな体制で臨むこれからの山口大学について、抱負を語っていただきました。

受け継ぐべきものと、新たに創造・確立していくもの…、

山口大学は、時代とともに変貌しています。

学長が語る「知の広場」の未来



Profile

山口大学長

丸本 卓哉

Marumoto Takuya

1967年九州大学農学部農芸化学科卒業。農学博士。山口大学助手、助教授、教授を経て2004年に理事・副学長、2006年に学長に就任、2010年、再選。趣味は武道(空手7段、居合道4段)、映画観賞。

私の三つの課題と大学の使命

私が学長に就任したのは2006年で、大学が法人化(2004年)してから3年目のことでした。法人化に伴って290数項目からなる中期目標・計画を立てたわけですが、当初はその一つひとつを達成することに追われました。大変でしたが、幸い第一期中期目標・計画はほぼ達成したと評価され、第二期中期目標・計画についても文科省から認可されました。

この間、大学をめぐる環境は大きく変わりました。第一に「大学の質保証」が強く叫ばれるようになり、特にグローバル化をふまえて見直す必要が出てきました。第二に、教養教育廃止から十数年を経て、その弊害が現われ始めたという問題があります。今後は再び幅広い基礎学力の養成に努め、学士教育課程も見直して卒業生の質保証を行っていかねばなりませんし、大学院の充実も課題です。第三に、国の財政悪化に伴って運営費交付金などが削減されるという財政状況の厳しさがあります。公的財政支援の削減は致し方ないのですが、研究資金としては、民間企業などから獲得する道もあります。学部によって



知

はこの外部資金に恵まれ、実はおかげさまで山口大学全体としての研究資金は増えています。ただし、学部によって差がありますし、大学間にも格差があるのです。それらの改善も学長二期目の私の課題です。今後も厳しい財政状況が続くと思われる中、大学教育の質をいかに確保していくか…、考えていかなければなりません。

しかしながら、いかなる状況下にあると大学にとって最も重要な使命は、若者の人材育成です。大学の先生は伝統的に、研究に主眼を置きがちですが、私の個人的な希望としては、研究6割、教育4割程度の比率にして教育を重視していただきたい。この点も引き続き呼びかけていきます。

就任当初から提唱してきた「理念」と「共育」の実践

山口大学は、理念「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の観点から、学生に道標を示し、未来を獲得するための応援をします。学生には、まず自分を見つめて自分を発見する…、つまり1年次に自分の伸ばすべき長所や修正すべき欠点を知り、2年次からはそれを育み、3、4年次では卒業後のことや就職も見据えて、育んだものをかたちにしてほしいのです。

また、学生が自ら学び、先生も学生から学んでいく、互いに育っていく意識が

ないとレベルアップはしません。そのための意識改革が必要だと思います。そして学生には、問題が生じたときに自ら解決していく力を培ってほしい。

山口県には、たとえば長州ファイブのように命がけで目標に挑み、時代を動かした先人たちがいます。本学の学生はその精神を学び、常にチャレンジする若者であってほしい。失敗を恐れず挑戦し、たとえ失敗しても再び果敢に立ち上がる。山口大学は、そういう学生が育つ大学にしていきたいのです。そのための環境は整っていますし、今後もさらに充実させていきます。



学生支援にも積極的に取り組んでいます。

保護者も関心の高い卒業後の進路については、法人化の前からキャリア形成教育、就職支援に力を入れ、法人化後



も全国初の就職支援センターを開設するなど積極的にサポートをしてきました。県の若者就職支援センターなどとも連携し、今では300社を超える企業が本学で説明会を開催されるほどです。学生は大学に居ながらにしてさまざまな就職情報を得ることのできる、恵まれた環境にあると思います。また、留学生の就職支援にも力を入れ、県内企業にインターンシップをお願いしたり、県内に就職した留学生もいます。これも本学の特徴ですね。

コミュニケートの拠点から東アジア、世界へと

地理的に中国や韓国に近いことを生かし、東アジアの拠点大学になることを目指すべきでしょう。各国の協定を結んだ大学には従来からサテライトイン

の広場

フォーメーションオフィス※を設置してきましたが、今年はインドネシア、台湾、中国、韓国、ベトナムに人員を配置したサテライトオフィスにして、留学生の募集を強化していきます。留学生受け入れにはさまざまな支援や整備も必要となりますが、山口大学独自の奨学金制度の創設や、外部資金によって拡充させた寮に留学生も混住できるようにするなど、総合的に取り組んでいきます。現在330人在籍している留学生を500～600人へ倍増させることを目指しています。

地域とともに歩む山口大学

常に地域との日常的な交流や貢献を心がけています。4月には平川地区の方々をお花見に招いたり、私たちも地元の運動会や盆踊りに参加しています。キャンパスには自然と融合した憩いの場がたくさんありますから、地域の方々には気軽に足を運んでいただきた

いものです。夏には正門近くに100mに渡って植えたオオガハスが咲くでしょうし、ビオトープ※にはゲンジボタルが飛び交うことでしょう。

そこから少し上がった所には私が「共育の丘」と名づけてモニュメントを設置した広場があり、平川地区を臨みながらの散歩やジョギングにもお薦めの場所です。今後も地域の方々と一緒に学園都市をつくっていきけるよう、大学から地域へ働きかけていきます。

また、地域に開かれた大学として、出前講義は地域からご要望があれば喜んで開催しますので、遠慮なく申し出てください。さらに、一般市民の方々に大学で講義を受けていただく公開講座も充実させていく予定で、これには修了証も発行します。何歳になっても学ぶ、学べるという「生涯教育」の意識やシステムは欧米では定着しており、日本でも社会の要請となりつつありますから、山口大学としても大いに応えていきたいと思っています。

オリジナリティを発信していきます。

何より高校生や保護者の方々に、山口大学の特色を知っていただきたく、昨年から私や副学長が近隣の高校を訪ねたり、逆に保護者の方々がバスを仕立てて本学に見学に来られたり…という試みを行っています。好評ですので今後も積極的に続けていきたいですね。また、スーパーサイエンスハイスクールプロジェクト※に協力して高校生が本学に来て勉強したり、本学の先生が高校に出向いて指導したりもしています。

大学はどんどん変わってきています。高校生や保護者の方々には、直接的な交流を通して本学の特色をしっかりと知っていただき、その上で山口大学を選んでいただきたいと願っています。本学としてもオリジナリティを発信していく努力が必要です。

※サテライトインフォーメーションオフィス
海外の協定大学に山口大学の資料等を設置し、海外でのPR活動をしています。

※ビオトープ
正門横のオオガハス池から続く小川で、小さな生き物の生息空間です。夏にはホタルが飛び交うキャンパスを目指し、癒しの場・憩いの場として地域の方々にも開放する予定です。

※スーパーサイエンスハイスクールプロジェクト
文部科学省が、科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度で、指定された高校の生徒が3年間にわたり大学で授業を受け、大学の実験・研究に取り組みます。詳しくは19ページで紹介しています。

理事・副学長からの メッセージ

The messages from directors and
vice presidents of the university

新年度における10人の新たな理事、副学長の
就任が決まりました。

新体制で臨むこれからの山口大学について
各々にメッセージをいただきました。



理事・副学長●(総務企画担当)

西田 輝夫

Nishida Teruo

山口大学は古い歴史を持ち、それぞれの学部が大学の教育・研究力を高めるため新しいことにチャレンジしています。在学中に、どんな道でも自分で切り開いて、自分で自分を養っていく力をつけてほしいと思っています。大学は可能な限り学生を応援します。



理事・副学長●(人事労務担当)

通山 正年

Tsuuzan Masatoshi

副学長としての役目は、安全で衛生的な教育環境の維持改善と、優秀な教職員の確保に努めることです。この大学は優秀な教職員と学生支援体制が整った良好な環境にあります。在学中に自分をアピールできる実力を身につけ、就職活動等に生かしてほしいと思います。



理事・副学長●(財務施設担当)

瀧口 治

Takiguchi Osamu

山口大学は、1815年創建の山口講堂から約200年間途切れず続いている高等教育機関として、東大、京大、東北大に次ぐ歴史と伝統のある大学です。無限の可能性を秘める学生諸君は、山紫水明なれど変革を愛する地である山口で、たくましい若者に育ってほしいと思っています。



理事・副学長●(教育学生担当)

吉田 一成

Yoshida Issei

比較的小じんまりとしていて教員との距離が近く「共育」しやすい大学です。多彩な要素が詰まった日々の中で学内外問わず大いに人と関わり、「いいところめけ!」に努めて人間力を養ってほしい。誰もが「我が子を入学させたい」と思える大学を目指します。



理事●(非常勤)

山本 博巳

Yamamoto Hiromi

民間企業の経営経験の視点や手法を生かし、母校の改革と発展に寄与したいと思います。長州は吉田松陰、高杉晋作をはじめとして現代に続く偉人を生み出した地です。この学び舎から若者が火種を見つけ、志に向かって正々堂々と歩んでほしいと願っています。



副学長●(学術研究担当)

三池 秀敏

Miike Hidetoshi

学術研究の活性化、研究情報の発信、時間学研究所を核とした研究者の人材育成制度の構築に取り組みます。こうした研究体制を通じた共育による人材育成が大学教育の本質です。学部卒業に留まらず、大学院への進学や博士課程での研究に挑戦してほしいと思っています。



副学長●(学術情報担当)

纈纈 厚

Kouketsu Atsushi

学生には、地味だけれど堅実な気風と、共同・共育・共有の「山大スピリット」を生かして、失敗を恐れず挑戦し、他者貢献と自己貢献に努めてほしい。学術情報担当としての的確な情報提供や、図書館活動を通しての学外との相互交流も図り、大学の発展に努めます。



副学長●(大学評価担当)

内藤 博夫

Naitoh Hiroo

大学評価は、大学の各活動が適切に行われているかどうかを検証するもので、今後は評価を楽しんで行える雰囲気にしていきたい。学生には静かな環境を生かして、よく考え、目的意識を持って生き生きと過ごしてほしいものです。まずは、行動することです。



副学長●(国際・社会連携担当)

松田 博

Matsuda Hiroshi

大学の長い歴史を誇りとしつつ国際的交流を進めていきます。海外での体験は就職や社会生活にも役立ちますし、留学生とは末長く交流し続けたいもの。学生には英語力アップや多彩な挑戦、成果をかたちにすることを望んでいます。本質を見抜く力を養いましょう。



副学長●(医学部附属病院担当)

松崎 益徳

Matsuzaki Masunori

療養中ですので、メッセージは控えさせていただきました。

大学と地域の ステキな街づくり

特集

地域に開かれた山口大学

山口大学のキャンパスが平川に移転してきたのは昭和40年代。当時の平川は見渡す限り田んぼや畑ばかりでした。今では「山大通り」にスーパーやコンビニもでき、本屋さんなどのお店も増えて、大学のある街として大きく変貌を遂げています。大学と地域との関わり方もこれまでの研究活動を通じたものだけではなく、地域に住む人たちにとって大学自体がより魅力的な存在となっていくことが大切だという考え方に変わってきています。



吉田キャンパスの正門から左手奥にかけては、今年約150本の桜の木が植えられ、並木道の整備が進められています。桜並木の近くには蛍が飛び交うビオトープがつくられ、大学会館のある丘の方まで散策できるようになる計画です。これらの施設整備には、地元の方にもっとキャンパスを利用してもらい、平川を大学のある街としてより充実したエリアにしていきたいとの大学の思いがこめられています。

吉田キャンパスでは、学生団体や山口大学エクステンションセンター※が中心になって、平川まつりでのブース展示や盆踊

り大会に職員や留学生を中心にした学生が参加しています。また春と秋には「グリーン作戦」と称して、大学前の九田川(くでんがわ)の清掃活動に取り組むなど、積極的な活動を始めています。

大学が取り組んでいる地域とのふれあいや、生活環境整備の活動、地域貢献の一部をご紹介します。

※山口大学エクステンションセンター/地域に開かれた「発見し・はぐくみ・かたにする知の広場」作りを目指し、講演会、公開講座など生涯学習の場の提供、人材養成活動の支援、催し物の開催などを行っています。

from Extension Center

山口大学エクステンションセンター長 長畑先生が語る

地域貢献は地方大学の大きなテーマのひとつ。山口大学ではキャンパスのある山口市や宇部市だけでなく、地元山口県への貢献を大きなテーマに掲げ、ここ数年、特に地域との交流に積極的に取り組んできました。県内を7地域に分けて、商工会議所、自治体関係者等の皆さんとの意見交換会も3年前から始めています。

より地域に
愛される大学を
目指しています!





九田川沿いを清掃する参加者たち

平川地区の一大会事! ふれあいクリーン作戦!

学生サークル、職員も参加し、山大の前を流れる九田川周辺のごみを一掃しました。春と秋に行われるこの清掃活動は、子供からご年配の方まで500人以上が参加する平川の一大会事となりました。

きれいな街、きれいなキャンパスをめざして、普段から落ちていたゴミを拾うということを心がけていきたいものです。

豪雨災害で協力! 給水支援による地元貢献

昨年7月…山口は大きな豪雨災害にみまわれました。平川地区でも水浸しになった家屋が多数ありました。一番大変だったのは断水。一週間も断水したところもあったようです。幸い吉田キャンパスは一般家庭と水道経路が異なり断水を免れたため、給水支援に取り組みました。



正門付近に設けられた臨時の給水所



地区住民と輪になり白河踊りを踊る大学職員

夏の風物詩 平川盆踊りに、学長も参加!!

日本の夏の風物詩です。この盆踊りには学長をはじめ、教職員、留学生や学生が参加し、大変盛り上がりしました。

留学生たちも浴衣を着付けてもらったり、ちょうちんに火入れをしたりと、日本の伝統行事を満喫できたようです。皆さんも一緒に踊ってみては?

地元 平川まつりに企画参加しました!

秋も深まった11月。山口大学としては昨年初参加となった平川まつり。ブースでは吉田キャンパスの歴史や、平川地区の文化・史跡を写真などで紹介しました。

サークルの学生や留学生たちも露店などでお手伝い。今年は何をしようか…今から楽しみです。



展示物を鑑賞し当手を懐かしむ地域の方々



桜の木の下で昼食を楽しむ学生

アナタの桜、育てませんか？ 桜花爛漫プロジェクト

吉田キャンパスの正門からキャンパス内に向けて桜の幼木150本を植え、市民のみなさんに開放する「桜花爛漫プロジェクト」が始まりました。

苗木代などは、市民の皆さんからの寄付金によって賄われ、寄付していただいた方は、自分の名前や好きな言葉などをプレートに記載できます。ソメイヨシノ、ヤマザクラなど5種類の幼木から選んだ桜が毎年花を咲かせます。



昨年開催されたイベント「つながちよる!世界と私の大発見!」

地域との交流が進む山大サークル

山口大学には数多くのサークルがありますが、学内だけでなく学外で活動し、地域の皆さんと活発に交流を重ねるサークルが少なくありません。そんな地域と積極的に関わっている2つのサークルをご紹介します。

「Cheka-チェカ-」は2008年7月に発足したフェアトレードのサークルです。フェアトレードとは、貧困のない社会を作るための公正な貿易のこと。フェアトレードについて学ぶ勉強会を開いたり、地域のイベントなどに参加して農産などに頼らないフェアトレード商品の試飲・試食を行うなど、多くの人たちにフェアトレードを知ってもらうための活動を行っています。

キャンパスと大学周辺のマップを作成しているサークル「MAPPY」。学内ではおなじみの存在で、マップは学内のいろいろな所に置いてあり、山大学生の生活に大きく貢献!当初は新入生のためのマップ作りが目的でしたが、大学周辺の店舗、地域団体の方々との交流が増えていき、今ではサークルや地域団体が開催するイベントの会場マップを作るなど活動範囲が広がっています。



MAPPY制作の山大MAP

地域社会に広がる 「知の広場」

エクステンションセンターは、山口大学が持つ人的、知的資源の有効な活用により、地域社会との多様な連携を推進し、地域の教育・文化の振興を支援しています。その一環として、次の3つの事業を展開していきます。

□ 出前講義

将来、大学に進んで学ぼうとする高校生の皆さんに大学の授業の面白さを知ってもらうために、大学での専門教育を分かりやすく、興味を持ってもらえるようにアレンジした講義を、高等学校に出向いて実施しています。高等学校等と連携して生徒の皆さんに学ぶことの意義や目標を持ってもらうことを目的としています。

□ 開放授業

地域の皆さまに対して学習の場と機会を提供するため、山口大学の正規の授業の一部を開放し、学生たちとともに同じ教室で山口大学の授業に触れてもらいます。

吉田キャンパスの整備状況を 地域の人たちに紹介

桜が咲き誇る今年4月初旬、花見も兼ねて、吉田キャンパスの整備状況を平川地区の人たちに紹介しました。大学のある街で良かったと地域の人に喜んでもらえる、そんなキャンパスを目指しています。



山口国体を応援する「ぶちやっちょる隊」

「ぶちやっちょる隊!!」は国体史上初となる大学生・短大生の広報ボランティアです。メンバーは県内16の大学、短大の学生で、山口大学には6人います。

リーダーは経済学部4年生でボート部マネージャーを務める若宮愛実さん。2年生のとき先輩から誘われて参加。「何も分からず説明会に参加したのですが、『ちょるる』の着ぐるみが楽しそうで…入隊することにしました」。主な活動は、国体イベントでのブース設営、一般ボランティアへの呼びかけ、ちょるるステッカーの配布など。もちろん「ちょるる」になって(?)の広報活動も!「小さな子どもが、ちょるるだあ〜!って笑顔で寄って来てくれるんです。こちらが元気をもらいますね。みんなと一緒に国体を盛り上げていきたいです」。



明るい笑顔が印象的な若宮さん



講座「歩いて、学んで、理解する。カタログにない秋吉台」



講座「(俄山を歩いて暮らしの伝承を学ぶ)」

□ 公開講座

地域の皆さまの“学びたい”という思いに応えるため、専門的知識や技術の習得を目指したものや、体験型のものなどさまざまなスタイルの講座を用意しています。学びの楽しさは一生のものであり、山口大学は地域に根ざした大学として、地域の皆さまに生涯を通じて楽しめる学びを企画・提供しています。

アンケート

**「歩いて、学んで、理解する。カタログにない秋吉台」に
参加された受講者の方からの声をご紹介します!**

秋吉台のことをほとんど知らなかったのですが、先生方の秋吉台に対する熱い思いに深く感動しました。また、実際に秋吉台を歩いてみて秋吉台の魅力がよくわかりました。楽しかったです。(Aさん)

受講された皆さん全員が大変親しみやすく、何でも質問できる雰囲気がとてもよかったです。ぜひ別の講座も受講してみたいと思っています。ありがとうございます!(Bさん)



申込みは全てインターネットにて受け付けています。詳しくは、山口大学エクステンションセンターのホームページをご確認ください。

<http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/>



あなたも利用できる！ 山大施設ガイド

山口大学は、学部によって吉田、小串、常盤の3つのキャンパスに分かれています。これらのキャンパス内には、地域の方にご利用いただける施設がたくさんあります。

吉田キャンパス 大学生活は吉田キャンパスからスタート！

すべての学部の1年次の共通教育がこの吉田キャンパスで行われます。また人文、教育、経済、理、農の5学部の専門課程もこのキャンパスで勉強することになります。

ここでは、キャンパス内で学生や教



多くのサークルが参加する新入生歓迎フェスティバル

職員以外の一般の方にご利用いただける施設をご紹介します。まず総合図書館は、専門書や貴重な資料が豊富にそろい、現在年間約8,000人の一般の方が利用しています。貸出カードも、一般利用者用に作ることができます。

次に学生食堂。吉田キャンパスには第1学生食堂ボーノと第2学生食堂きららの2つの学食があります。それぞれのメニューを食べ比べてみるのも楽しみ。お惣菜や麺類、サラダやデザート、安くて健康を考えたメニューがいっぱいです。

また、埋蔵文化財資料館では、キャン



キャンパス内にある芝生は学生たちの憩いの場です

パス内の吉田遺跡で発掘した遺物を展示しています。そして商品資料館では、経済学部の前身「山口高等商業学校」の頃、商品学授業で使われていた8,000点以上もの商品資料が保管・展示されています。どちらも山口大学ならではの貴重な資料を見ることができますよ。



第1学生食堂ボーノ

営業時間は月曜日～金曜日が8:00～20:00、土曜日が10:00～14:00。長期休業中は短縮営業。天気の良い日は外のテラスや芝生で昼食を食べることもできます



第2学生食堂きらら

営業時間は月曜日～金曜日の8:00～19:30。長期休業中は短縮営業



埋蔵文化財資料館

平日は9:00～17:00、休館日は、土・日曜日と祝祭日に加えて8月13日～15日と12月28日～1月4日。入館料は無料



商品資料館

平日は10:00～16:00。休館日は、土・日・祝日、本学創立記念日(6月1日)、12月28日～1月4日



総合図書館

平日は8:30～21:45まで開館。休日・祝日・長期休業中は開館時間が異なります。また、閉館日は、原則年末年始と休業期の土・日・祝日となっています。詳しくは山口大学図書館のWebページで確認してください
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>



私たち広報学生スタッフ「YU-PRSS」(ユープラス)が
皆さんも気軽に使える施設をご紹介します。

(左から) 原内 由佳 (人文学部3年)、
島津 梢 (人文学部4年)、佐々木 裕美 (教育学部2年)
安成 啓佑 (農学部4年)、久保田 法彦 (理学部2年)

吉田キャンパスの
正門付近が整備されて
キレイになりました。

小串キャンパス 学内にドールコーヒーがあるキャンパス

医学部の学生が通う小串キャンパスは宇部市南小串にあります。宇部市の中心部にありながらも、近くの河畔公園から四季を感じることができる環境のなか、日々活発な教育・研究活動を行っています。

キャンパス内には大学の施設だけで

なく附属病院があり、一般の方が利用できるスペースには、学生や先生のほかに、通院されている方や、お見舞いに来られている方の姿も見られます。附属病院内にはレストランやドールコーヒーもあります。



病院内のレストラン(右)。外の景色を眺めながら食事ができます。ドールコーヒー(左)は本場のコーヒーが味わえ、お昼時やちょっとした休憩のひとときに利用する人がいます



街の中にあるので
アクセスも
便利です。



(左) 小枝 佑佳
(人文学部4年)
(右) 林田 久恵
(人文学部3年)



医学部図書館

平日は8:30~21:45まで開館。休日・祝日・長期休業中は開館時間が異なります。また、閉館日は、原則年末年始と休業期の土・日・祝日となっています。詳しくは山口大学図書館のWebページで確認してください
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>



医心館

営業時間は食堂が8:00~19:30、売店が8:00~18:00。長期休業中は短縮営業

常盤キャンパス 昨年、学術資料展示館を新設しました

常盤キャンパスは工学部の学生が利用するキャンパスです。近くには宇部市の名所「ときわ公園」があり、美しい景観が楽しめます。中四国地域の工学部のキャンパスとしては最大の規模を誇り、研究施設も充実しています。

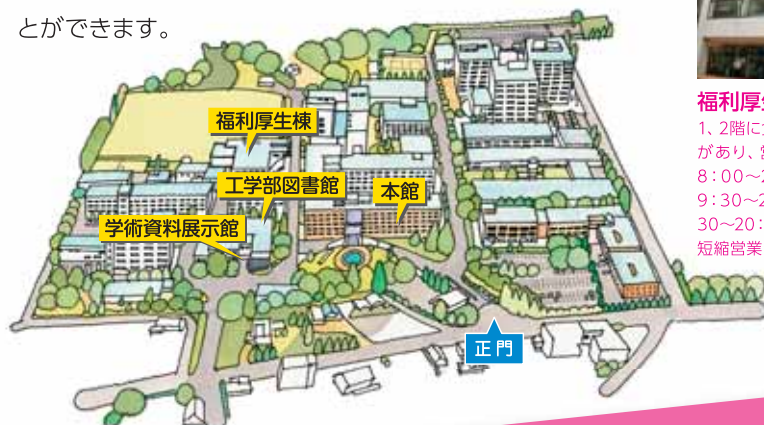
昨年、工学部創立70周年を記念してかねてから建設を進めていた学術資料展示館が完成しました。この資料館は山口大と東北大の両名誉教授である

苅木浅彦先生が収集した世界の珍しい鉱石(ボリビアの石英やチリの孔雀石など)約20,000点を地下に保管し、このうち約500点を元素別、成因別に展示しています。

この学術資料展示館と学生食堂、工学部図書館は一般の方も利用することができます。

工学部図書館

平日は8:30~21:45まで開館。休日・祝日・長期休業中は開館時間が異なります。また、閉館日は、原則年末年始と休業期の土・日・祝日となっています。詳しくは山口大学図書館のWebページで確認してください
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>



学術資料展示館

平日は9:00~17:30、土・日・祝日は12:00~17:30。閉館日は図書館と同じ



福利厚生棟

1、2階に食堂・喫茶店・売店があり、営業時間は食堂が8:00~20:30、喫茶店が9:30~20:00、売店が9:30~20:00。長期休業中は短縮営業

(左) 国本 亮
(工学部2年)
(右) 入江 貴博
(工学部2年)



山大にしかない
資料も
閲覧できます。

それぞれのキャンパス施設の奥の方には、学生や教職員しか行かないような売店や伝説の軽食堂もあるようです。また機会があればご紹介しますので楽しみに!



先生
おじゃまします

研究室訪問

おじゃました研究室は…

「環境共生フロンティア研究拠点」

宮本 文穂 教授 にお話をうかがいました!



大学院理工学研究科(環境共生系学域 安全環境学分野) 宮本 文穂 教授

目指しているのは 環境と共生する社会

地球温暖化や大気圏・水圏の汚染などの環境問題、老朽化する社会基盤施設の維持・管理などの問題をテーマに、大学院理工学研究科にある安全環境研究センターで研究を行っています。

「私たちが共同研究で目指しているのは『環境共生社会』です。今は、このまま突き進むと地球がもたないという段階まで来ていて、環境に優しい技術が必要とされています」と語る、代表研究者の宮本教授。

「環境共生フロンティア研究拠点」には先端科学を研究する3つのグループがあり、環境を総合的な観点から研究しています。このような研究拠点は国内外にほとんどなく、この試みは先進的であるといえます。

「今まで私が研究してきた『構造診断学』では、例えば、強度が強くて長持ちする橋を造ることが重要とされていて、そこで生きている生物の安全についてはあま

り考えていませんでした。それが今の環境破壊に繋がっていることを我々は反省しなくてはなりません」

宮本教授は「構造物状態モニタリング・状態認識研究グループ」に所属して、橋など構造物の疲弊状態の分析や、寿命を延ばすためのヘルスマニタリングと呼ばれるシステムの開発や研究に取り組み、バーチャルリアリティなどの最新技術での構造物調査も行っています。

「今まで環境を念頭に研究をやっていなかったのですが、他の分野との情報共有が必要です。例えば橋を造ったことで起きた環境汚染を修復するためには、『環境浄化修復・生物多様性研究グループ』が研究している浄化作用を持った生物の利用が考えられます。また、汚水を分解する不思議な膜を研究している『ナノ構造分子ふるい分離膜研究グループ』との連携も必要です。難しい作業であり成果もまだまだですが、今は『環境共生学』という新しい学問の礎をつくっていると思っています」

今年度から4つ目の柱として、「リモートセンシンググループ」が加わります。これは、地球規模の環境予防を研究するグループ。今後、枠組みを超えた研究で、環境と共生できる社会への道標を示してくれるでしょう。



「構造診断学」の研究風景

橋の耐震強度を測定する最新の研究設備

プロジェクトの概要

地球温暖化、大気圏・水圏の汚染など、今後ますます深刻になる地球環境問題に取り組む総合的な研究です。工学系、理学系、医学系、農学系、社会科学系スタッフの連携による研究を通して、若手研究者の育成を図っています。

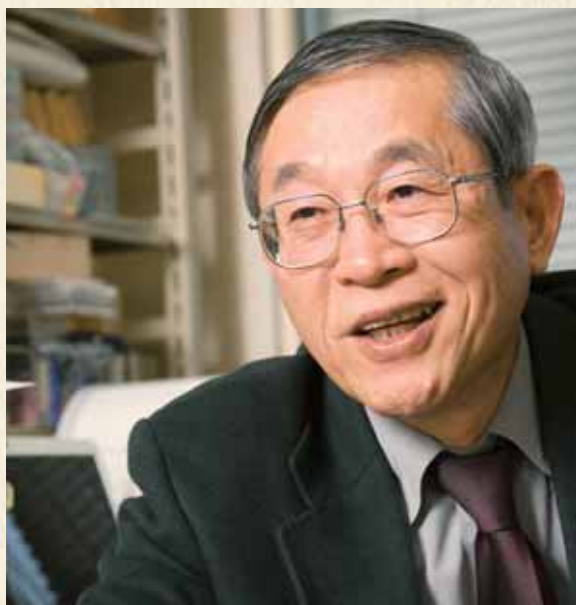
山口大学研究
推進体とは…?

いくつかの領域にまたがる研究テーマに対して、各学部の教授や研究者が専門分野を持ち寄り、学部の壁を超えて取り組む研究グループです。平成16年度に創設、21年度に再編成。地域課題研究の推進拠点づくりや若手研究者の育成を目的とし、世界水準の研究をめざしています。

おじゃました研究室は…

「やまぐち学推進プロジェクト」

田中 誠二 教授 にお話をうかがいました!



人文学部 人文社会学科(歴史学講座) 田中 誠二 教授

「あっ」とわかる喜び 山口の地域学を研究

「地元にある固有性と、他の地域と共通する普遍性の両方をとらえることが大切な学問です。地元だけでなく他の地域を知ること、より地元のことを理解できるからです。これは、地元を知り、自分を知るという自己認識の作業にも繋がります。私たちの研究はこの繰り返しなんです。自分なりの考えを作り上げることは苦しい作業ですが、ある時、『あっ』とわかる喜びがあります。だから学問は楽しいんですね」そう語るのは「やまぐち学推進プロジェクト」を統括する田中誠二教授です。

山口そのものを研究フィールドに、専門の「日本近世史」と他のスタッフの専門分野の力を結集し、山口県と山口県民のアイデンティティーを研究しています。

「学問的な裏付けをとることが大切です。単に褒めちぎったお国自慢やフィクションではダメなんです。その説が正しいか論理的に組み立てなければいけない。

その意味では自然科学と同じで、史料を使って他の人が考えても同じ結論が導き出されなければなりません」

山口で山口の歴史・文化を研究する人にとって、多くの史料が現存していることは最大のメリット。特に毛利家の史料は全国でも有数の量にのぼるといいます。

「人文学の研究においてオリジナルに触れることは最も大切なことですから、多くの史料に恵まれた私は、宝の山の中にいるようなものです。現物にはオーラが漂っているんですよ。ずっと、史料を見せていただいたり、お話しをしていただいた方たちの善意に、お返ししたいという気持ちがありました。『山口県史』の編纂は、そのお返しの一環で20年かけての大事業になっています」

「やまぐち学推進プロジェクト」では、研究活動や成果の発信の場として、毎年シンポジウムを開催しています。昨年度行われた「萩藩研究の新展開」には、学生だけでなく一般の来場者も多く好評でした。また、毎年刊行している機関誌「やまぐち学の構築」では、1号から5号までで38編の論文を発表しています。

豊かな歴史を持つ山口の大学として行う独自の地域密着型研究。その成果に今後も期待が集まります。



毎年度刊行している
機関誌「やまぐち学の構築」

毛利輝元直筆のサインが
入った栗屋家文書



プロジェクトの概要

山口の歴史、文化、風習などを通して、ここ山口にしかないもの(固有性)や、山口と他の地域で共通していること(普遍性)を研究するグループです。人文学部だけでなく他の学部からもスタッフがこのプロジェクトに参加しています。

「やまぐち街なか大学」との 出会いが、今へ繋がる 扉を開いた。

Profile

伊藤 彰さん 平成14年 山口大学大学院 人文科学研究科 修了
岩国市出身・山口市在住
Itou Akira

MY JOB

やまぐち県民活動支援センター センター長

県民、企業、行政のパートナーシップによる新しい時代の県づくりに向けて、NPO活動、ボランティア活動、コミュニティ活動など県民の自主的・主体的な活動を支援しています。



居心地の良かった 「研究室ライフ」

高校生の頃から哲学思想に興味があり、山口大学では当時の人文学部社会学科人間論コースに進みました。大学生活は「研究室ライフ」でした。所属していた日本思想史研究室の居心地は良かったです。毎日のように研究室で飲食をともにしながら、仲間というかと語り合っていました。時には研究について熱くなりながらディスカッションする。自分だけでは考えつかなかったようないいアイデアが口から出てくる…なんてことも。モノを考える力やディスカッション能力がこの時ついたのかなと思います。

学校以外での人との 繋がりは意義のあるもの

今の業界(?)に入ったのは、在学中に先輩から誘われ「やまぐち街なか大学」の実行委員会に参加したのがきっかけです。「やまぐち街なか大学」というのは、山口市民の方の「こんなこと

を勉強してみたい、調べてみたい」というリクエストに対して、専門知識のある人たちを交えて公開講座や研究会を行うものです。大学生の立場から意見や



アイデアを出すということに関わってきました。学校以外での人との繋がりが徐々にできていき、意義のあるものでした。やまぐち県民活動支援センターが開設される時に、そこで働いてみないかと声をかけてくれたのが当時同じ業界で仕事をしていた友人でした。ちょうど就職活動をしていた時で、そのまま現在に至っています。

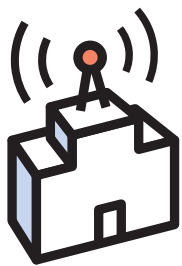
積極的に疑問を ぶつけて欲しい

今の大学生は1年の時から「就職」に向けて動いていると思います。もちろん勉強や資格取得については大事です

が、私は「遊び」の部分も大切だと思っています。車のハンドルにも遊びがあるように、自分の将来設計に直接関係ないことにも関わってみると、そこから人脈が広がり案外何かにつながっていくことも少なくないと思います。

最近、大学が地域に根付き始めているな、学生が地元の活動者と実際に接しているなと感じています。これは大学や学生が営むさまざまな取り組みによるところが大きいと思います。山大の後輩には、教職員・地域の人々などオトナとの交流の中で、何かあれば積極的に尋ねることをオススメします。もちろん、場合によってはある程度自ら考えてみて「私はこう思うのですが、いかがでしょう」と自分の意見を提示しながら質問するとベターです。基本的にオトナは、学生からの真摯な問いはウェルカムですから。





NEWS & TOPICS

こちら山大情報局

山大的コトがもっとわかる話題やニュースをお届けします。

NEWS & TOPICS 01

「私たちはこんな病院で働き隊」が 評価結果を公表

医学部では、学生が県内の病院を訪問して、働く環境などを評価し、公表する取り組みを行っています。その名も「私たちはこんな病院で働き隊」。学生と病院がコミュニケーションを取り合うことで、病院は労働環境を確認でき、学生は将来の働き場所を見学することができます。これが、将来の医師不足の解消と医療の質向上につながることを目指しています。

学生が病院を評価するのは全国でも初めての試みということです。始まりのきっかけは、平成20年4月、県が医療体制の充実を目的に、寄付講座として医学部に設置した「地域医療学講座」（平成22年4月より「地域医療推進学講座」）。その一環として現在までに2件の評価が終了し、評価結果はHPに掲載しています。

[https://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/
~tiiki/hatarakitai.htm](https://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tiiki/hatarakitai.htm)



NEWS & TOPICS 02

推薦入試に緊急医師確保対策枠および地域医療再生枠を導入

医学部医学科では平成21年度推薦入試から、従来の「地域枠」に加えて、新たに「緊急医師確保対策枠」を導入しています。また、平成22年度一般入試（前期日程）から従来の募集人員に加え、地域医療再生枠を導入し、平成23年度入試からは、これを推薦入試で募集します。今後いっそう深刻になる県内の医師不足に備え、将来の地域医療を担う優秀な医師を育成することを目的としています。緊急医師確保対策枠の入学するには、山口県から「緊急医師確保対策に基づく奨学金」、地域医療再生枠の入学には、「地域医療再生計画に基づく寄付金」が貸与されます。

山口大学医学部医学科は、県内唯一の医師養成機関として、「地域へ貢献する」という確固たる使命のもと、「良き医療人」の育成を目指し、地域医療の発展に貢献する強い意志のある方を募集しています。

[http://nyushi.arc.yamaguchi-u.ac.jp/
h23nyushihenkou/
h23afternyushihenkou.html](http://nyushi.arc.yamaguchi-u.ac.jp/h23nyushihenkou/h23afternyushihenkou.html)

サイエンスワールド2009を開催

昨年11月14日、15日に、吉田キャンパスで「サイエンスワールド2009」を開催しました。小中高生や地域の方に、自然科学の魅力を楽しく分かりやすく知っていただくため、平成12年から理学部が中心となって行っているイベントです。県内外の高等学校、科学館、博物館などと連携し、研究成果の発表や科学演示、体験実習などを行いました。

今回は、山口県立山口博物館、防府市青少年科学館ソラール、秋吉台科学博物館、豊田ホテルの里ミュージアム、岩国市立ミクロ生物館、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムから特別出展していただきました。山口県立山口博物館の「山口博物

館ロボット教室」など身近で楽しいコーナーもあり、多くの人たちでにぎわいました。



スーパーサイエンスハイスクールの取り組み

現在工学部では、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定された山口県立宇部高等学校と協力して高大連携教育を実施しています。SSHとは、理科・数学など理系教育に力を入れている学校を指定し、将来の国際的な科学技術系の人材を育成するため、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことを目指した文部科学省の事業です。

SSH授業では、高校生が大学で授業を受け、大学の実験・研究に取り組みます。SSH1(1年生)では、工学部の講義を受け、実験・実習を行い、SSH2(2年生)では、教員・大学院生の指導のもと課題研究に取り組みます。SSH3(3年生)では、得られた

研究結果をまとめ、中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究大会および全国SSH生徒成果発表会に向けた資料を作成します。これは5年間にわたり実施され、平成23年度まで行われます。



農学部オープンセミナー2009を開催

農学部オープンセミナー2009「作ってみよう、光合成と呼吸の測定装置」が、昨年8月29日に開催されました。今回が初の開催となり、県内外から高校生16人と高校教諭3人が参加しました。

このセミナーは、高校で学習する内容と大学の専門的領域との接続を目指して行われたものです。「農学における光合成」「植物の成長と水分吸収」「ボイル・シャルルの法則と気体の状態方程式」などについて講義が行われました。また、農学部教員や大学院生の指導を受けながら、参加者は呼吸測定装置を作製し、実際にトマトなどの呼吸速度や光合成速度を測

定しました。最後には、修了書が授与され、参加した皆さんからは「満足できた、もう一度参加したい」などの感想が寄せられました。



EVENT CALENDAR

イベントカレンダー (6月・7月・8月初旬)

6月	1日	火	進学説明会 (ステーションホテル小倉、北九州)
	2日	水	進学説明会 (ジェイドガーデンパレス、鹿児島)
	3日	木	進学説明会 (ホテルニューオータニ博多、福岡)
	4日	金	進学説明会 (MRT micc、宮崎)
	5日	土	日本時間学会公開学術シンポジウム
	7日	月	進学説明会 (ハynesホテル久留米、久留米)
	8日	火	進学説明会 (ホテル日航熊本、熊本)
	9日	水	進学説明会 (ベストウェスタンプレミアホテル、長崎)
	10日	木	進学説明会 (トキハ会館、大分)
	11日	金	進学説明会 (ビエンフォーレ佐嘉神社記念館、佐賀) 第3回留学生就職支援フェスティン・山口 (大学会館)
	12日	土	E.S.S ディベートトーナメント (経済学部棟、～13日)
	26日	土	自由な空白 (演劇サークル) 発表 (大学会館、～27日)
	29日	火	国立大学法人等職員採用試験第1次試験合格発表
7月	1日	木	高等学校教諭対象公開説明会 (7日、9日)
	12日	月	日本語・日本文化 サマープログラム (～8月6日)
	23日	金	前期末定期試験期間 (～8月5日)
	24日	土	進学説明会 (大阪国際会議場、大阪) 理学部サマースクール 2010 (理学部棟、31日、8月21日、28日)
8月	6日	金	オープンキャンパス (小串キャンパス) 夏季休業 (～9月29日)
	7日	土	オープンキャンパス (吉田キャンパス) 進学説明会 (名古屋国際会議場、名古屋)
	8日	日	オープンキャンパス (常盤キャンパス)



山口大学広報誌第95号

編集発行 山口大学広報委員会 (総合企画部広報チーム)

住所: 山口市吉田 1677-1

電話: 083-933-5007 Fax: 083-933-5013

E-mail: sh011@yamaguchi-u.ac.jp

広報学生スタッフ YU-PRSS (ユープラス)

小枝 佑佳	林田 久恵	久保田 法彦	長岡 奈緒子
繁富 志織	原内 由佳	入江 貴博	前田 梨乃
島津 梢	桐原 祐太	佐々木 裕美	吉岡 優一
安成 啓佑	国本 亮	黒江 那津子	